

## 滋賀県介護の魅力等発信部会 (令和3年度 第3回)

- 日 時 令和4年3月31日(木) 15:00~17:00
- 場 所 WEB 会議
- 出席委員 山岡委員(部会長)、中村真理委員(副部会長)、後藤委員、東委員、河岸委員、今居委員(岡戸委員代理)、山委員、築地委員、中村勝弘委員
- オブザーバー (株)JR 西日本コミュニケーションズ
- 議 題
  - (1) 令和3年度介護のしごと魅力発信事業について
  - (2) 令和4年度介護のしごと魅力発信事業について

### 1. 議題(1) 令和3年度介護のしごと魅力発信事業について

※資料1によりオブザーバーから説明

#### 【部会長】

○今年度の実績報告に対して、感想や質問等どうか。

#### 【委員】

- しがけあフェスタでは、うちも学生を動員してブースを出展させていただいた。
- 2月は寒い時であったり、コロナも蔓延しているような時であったが、開催時期を検討していただけたらと思う。

#### 【事務局】

○今年度は、コロナに関して非常に厳しい時期に当たったので、経験やコロナの性質のようなことも踏まえた開催時期を、次の議題でご意見いただきたいと思っている。

#### 【委員】

- 今日の会議に当たって、今展開されていることの把握を何とか追いつこうと、午前中に情報を見せていただいていたという状況である。やはり残念だったのが、2月のしがけあフェスタに、団体として参加できないという判断をせざるを得なかったこと。この事業を気になりながらも、目の前のことで精一杯であった状況がここ数か月続いている。
- この報告書を見ると、非常に良くやっていただいていると思ったし、東委員と河岸委員のぼこぴーとのコラボ動画は、はっきり言って秀逸でやるなあと思った。動画の中身は出演者次第の中、うまくやられたと思う。事業全体を見渡しても、これから変わっていくんじゃないかなという印象は受けたので、大きな一歩と思った。

#### 【委員】

○台本も何もない状況で、河岸委員と本当に普段の会話内容で臨んだ。実際は1時間くらい収録していたので、カットもあった。最初は自分が出て良いものかどうかと思っていたが、YouTube 出演は良い経験になったし、コメント欄を見て嬉しくなった。

- 事業全体としては、老健協会としてもしがけあフェスタに参加できなかったというのが悔しく残念であった。協会内で実行委員を立ち上げ、予算付けて、毎月2回程度のWEB会議で色々考えてくれていた。彼らに参加できないことを伝えるのは残念だった。山委員が言われた時期については、我々もコロナの時期は読めなかった。
- 各団体でも取り組んでは来たが、我々だけではこうした企画は考えられなかったし、新しいことにチャレンジできたことに関してはすごく良かったと思う。今後の取組も皆さんと考えていきたいと思う。オブザーバーからは今年度我々と関わった経験を踏まえて、反省点や改善点を伺いたい。

### 【オブザーバー】

- 座談会出演を県内介護事業所に依頼した際に、しがけあプロジェクトが浸透しておらず、御存じでなかった。滋賀県の介護業界全体で盛り上げていく方が、より盛り上がりにつながる感じている、業界内に周知するためにはどのような繋がりや取組が必要なのかご意見いただきたい。

### 【委員】

- 団体内でも会議で報告したり、会員事業所においてポスター掲示したりしていた。結局、一職員までの浸透はまだかもしれない。滋老協はどうか。

### 【委員】

- やはり、目の前の関心がコロナ対応に向いている。1月からは本当にどうしようもない状況だったが、そうだった以前のことを踏まえても、届かなかったという実感はある。オブザーバーの指摘は我々現場も、振り返らないといけないと思う。

### 【委員】

- YouTube 出演は初めての経験で楽しかったし、アピールするには良いきっかけになったと思う。個人的に後から思うと、もう少し上手に喋れたんじゃないかと思った。
- 社会福祉士会としては、コロナ下ということもあり元々会場参加はあまり考えてなく、WEB開催等にも対応できるように映像で出展した。コロナが関係ない状況になれば、やはり現地のできる取組を考えていければと思う。
- 業界全体で盛り上げることにするオブザーバーの指摘はその通りと思っている。私の出身の事業所では企画に出演したこともあって、職員に案内しやすい状況にあったが、業界として見ると「しがけあ」というものがまだまだ浸透していない。今後もその方向で行くなら、もっと意識できるようにその言葉を使って行った方が良いのかなと思う。
- オブザーバーの報告書では実績が数値化されており、わかりやすく流石と思う。

### 【副部長】

- これまで介護でイベントをしようとする、平面的にしか考えられなかったところが、横断的、経過的に組んでいただいて、振り返るとすごいと思う。
- 言葉に関して、例えば魅力部会と言っていたのをしがけあの打ち合わせと言っていくような身近なところから伝えて行かないと伝わらないなと反省している。

○しがけあフェスタについては、介護福祉士会として、現場に出られないからできないという発想で終わってしまったが、WEB発信など前向きな発想を持ちながら取り組んで行きたいと思った。

#### 【委員】

○しがけあフェスタにおいて、ケアマネ協も直前に参加できなくなり、当会から一人で現場へ参加させていただいた。

○今回の報告を見ると、費用もかけて色んな発信やPRをされていると思った。

○しがけあという響きは個人的にも気に入っているが、まだ浸透していないということだった。外ばかりに向けているが、内側にも発信し周知して行かないといけないと思っている。

○今後、コロナであっても取り組んで行けるようにWEB等の現場での対策を考えていきたい。

○数値でも出ているような報告書の結果が、現に介護の職場に来ていただけるようにどう繋げられるかはこれからの課題と思っている。

#### 【委員】

○フェスタが近づくにつれてオブザーバーには、当会から細かい要求を何度もさせていただいたが、嫌な顔されずに受け止めていただいて本当に感謝している。当会としては抱え上げない介護のアピールは上手くいったと思っている。また、フェスタ当日に自らリフトに乗って初めて分かったが、こんなに安定しているものなのかと感心した。こうした体験は市町事業に参加させていただく際にも、経験を伝えられるようになったことも良かったと思う。

○しがけあの認知度についてはまだまだこれからと思うし、当人材センターも無料職業紹介をしていることが認知されていないので意識する必要がある。

○今回の事業によって緩やかでも流れはできたと思うので、それを止めないように今後も参画して行きたい。

#### 【委員】

○皆さんと一緒に作られたということが良くわかる、大変すばらしいプロモーションをされたという風に全体として思う。協力された皆さんと企画・実施されたオブザーバーが大変ご努力されたと感じている。全体としては上手くいったのだろうと理解する。

○今回、広報活動と広告活動を両方されたと思うが、特にオブザーバーの本業であるオンラインやSNSを使った広告は流石プロの技ということをされていた。大変品質の高いものをされたように思う。広報という観点からすると、信頼感や親しみ、嘘言っていない、等身大の姿だな、これからも付き合っていけそうだな、というような認識を持ってもらうのが広報活動の狙いである中、これも初期の目標を達成していると言って良いんじゃないかと思っている。

○今後の課題は、ひとつは皆さん言われたように、しがけあという言葉と言うか概念と言うか動きと言うか、これが特に内部において、十分に共有されていないということが見えてきた。広告会社であるオブザーバーが外に広く告げることはフルに力を発揮されたと思うが、当事者間での概念の共有というところには、未だたどり着いていない。

○聞いていて改めて思ったのが、「しがけあ」という四文字のキャッチコピーの役目は何なのだろうかということ。これはオブザーバーではなく、皆さん方がもう一度考えて定義し直さなければならないと感じる。つまり、介護の魅力を発信して人材を獲得して行くという、広

告の成果を刈り取ることに結びついていく必要があるので、「しがけあ」という四文字は動詞なのだろうと私は思う。行動の方向とか行動の中身を示す言葉であるべきと思う。そういう意味で、行動や方向性に結びつけられていないというのが、この「しがけあ」という言葉の現在地だろうと思う。

○滋賀とケアが深く結びつくんだということは、共有されていると思うが、「しがけあ」という言葉を使うことによって何をしようとしているのかが、この言葉には現れていない。例えば、この報告書では「しがけあプロジェクト」という言い方をしているが、そう言った方が人の動きをつくりやすいかもしれないし、あるいは「滋賀のケア、ケアの滋賀、しがけあ」などと言ったように、少し言葉を補うことによって、何をしようとしているのかを見せるのも必要と思う。これは今後への課題。

○また、成果を刈り取って行くにはどのような戦略が良いのか、それを裏付けていくための持続性をどうしようにつくっていくのかを、委員の皆さんおよび所属されている組織の皆さん方の課題であるということが言えると思った。

### 【事務局】

○オブザーバーにおかれては、中々我々だけではできないことをやっていただき、こういう形で成果をまとめていただいて感謝申し上げます。

○しがけあプロジェクトについて、先の県議会2月定例会議において質問いただいた。質問した県議会議員は当部会の議論を全て確認されており、非常に深い議論をされていると褒めていただいた次第である。特に業界と一緒に進めていることに対して評価いただいた。質問に対しても、Vtuberの起用など新しい試みにおいて一定成果が出ていると、健康医療福祉部長から答弁させていただいた。議会の方面からも一定評価いただいているということはこの場を借りて、皆さんに報告させていただく。

○先程からご指摘いただいている今後の出口について、事業の効果をどのように考えて、設定して行くかについて課題と考えている。築地委員の言葉を借りれば広告事業としての効果を数値でお示したところだが、これまでの県の啓発事業では、中々そういった部分まで踏み込んで成果の整理をできていなかったのではないかと考えていたので、数値で示せることによって今後が続く取組となったと考えている。この事業が最終的には人材の確保に繋がっていくというアウトカムの部分を、中々難しいが数値で設定して行くことが必要と意識しているところ。

○また、業界としての盛り上がりに関して、先日の滋賀県介護・福祉人材センター運営委員会において当課から事業報告したところ、同委員からは、このような取組をしていることは全然知らなかったと厳しいご意見もいただいたので、業界全体としてどのように盛り上げていくかについては我々も一緒に考えていきたいと思っている。

### 【部会長】

○議題1はこれで終了する。オブザーバーはここで退席となるが、今年度本当にお世話になった。ありがとうございました。

※オブザーバー退席

## 2. 議題（2）令和4年度介護のしごと魅力発信事業について

※資料2～6により事務局から説明

### 【部会長】

○令和4年度の事業にあたっての各種要領の説明だったが、ご意見ご質問ご提案どうか。

### 【委員】

○イベントに関して、2月は当学生も出づらいし、10月11月くらいならお客さんも来やすいのかもしれない。コロナ的にも2月よりはましかと思うので、遅くとも12月の初めくらいに設定いただければと思う。

### 【委員】

○学生ということを考えた場合に3回生にという説明だった。現在の就活のタイミングはバラついてきているというはあるものの、3回生の6月にインターンシップが一般化している。翌年3月に就活の一斉スタートという状況は確かにあるが、6月にインターンシップの広告解禁というのがある。一般企業の就職の話ではあるが、そこから就活モードに一気に入っていく。介護人材を獲得していくにあたって、そういうスケジュールにどの程度向き合っていくかということは考えた方が良くと思う。

○イベントのあり方についてもそれが結びつくかと思うが、つまりイベントで何をするのかという中で、今申し上げたように夏休みに介護のインターンシップを経験した学生たちによる報告会のようなものをイベントで企画してはどうか。まとめて報告するという体験をした人は自分が対象とした事柄に対しては、当然深く関心を寄せるし、当事者意識を持つので、そのようにやってはどうかと思う。インターンシップの活用と報告会的な学生の取り込み。これは学生と日々向き合っている側の実感として参考になれば。

### 【事務局】

○介護業界へのインターンシップの斡旋については、まさに人材センターがやっているの、そうした活用や連携は十分考えられると思う。

### 【委員】

○令和4年度も早めに、5月にはスタートさせたいと思っていて、現在事業所を募集しているところ。

### 【事務局】

○イベントの時期について、12月とすると早まるか準備等問題ないか。

### 【委員】

○時期は任せる。遅い方が準備はできるが、早ければ焦ってやらないと、と思う。学生の動きなどを踏まえていくしかないので、早めの方が良いかなと思った。

○事業の継続性は大事と思う。SNS等では第2弾のYouTubeとして後藤委員や中村委員にも出ていただけると楽しいなと思いつつながら、続けて欲しいということ。アニメーションの活用は是

非してもらいたいと思う。

- 先日のイベントについて、やはりブース等に人を集めるのは難しいと思った。現場も見に行ったが、思っている以上にイオンモールの来客は多かったが、イベントには集まっていないと感じた。あそこで立ち止まってもらうためには、同じやり方では難しいと感じた。老健協会としても、前回以上の予算で実行委員を立ち上げて、プレッシャーを与えていきたいと思っている。
- また、これからは、施設別や団体別ではなくて、内容を決めて団体関係なく協力し合って実施したほうが良いと思う。あるいはブースも団体毎ではなくて学生に任しても良いと思う。連絡調整会議などにおいても、若者が立ち止まるようなものを考えてもらって実施しないと難しいと思う。
- さらに、次回からは将来的にスポンサーになっていただけるような協賛企業にも参画や出展いただければと思う。介護のことも自社の宣伝もしてもらっても良いと思う。
- 他方、会議名もしがけあプロジェクト会議などの方が我々も意識する。
- 日ごろから介護の魅力は何なのかと考えているが、介護のメリットと介護の可能性を伝えることを努力している。最終的には人材センターに繋げられるように。できれば外国人の方も繋いでいけるように、というあたりも考えて行かれてはどうかと思う。

#### 【部会長】

- 次回 YouTube の出演が期待される後藤委員はどうか。

#### 【委員】

- 若干、そんな予感はしていたが、ただ、もっと現場にスポットを当てても良いと思う。出演のプレッシャーもあると思うが。
- 先の議題で築地委員が言われたことに関して、現場に浸透しなかったところに「しがけあ」がピンと来ないというのがある。滋賀県が昔から福祉の歴史を担っている中で、「しがけあ」を特別な言葉として重みを付けたほうが良いのか、あるいは単に滋賀県のケアの「しがけあ」を使い続けて浸透して行くことを狙うのか、まだ一年度しか済んでいないので何とも言えない。介護のしごと魅力発信事業の方がそのものを表すので、しがけあプロジェクトと言われるよりもわかりやすい。言葉がたくさん並んで行くのを再度シンプルにしていけないとも思う。
- イベントについて、東委員が言われていたように、団体別によるブースの意味は、私はもう無いと思っている。団体同士の準備段階が違ったので一緒にできない状況はあったが、令和3年度事業においても連合会と共同でという流れもあった。団体の宣伝をするわけでもないし、介護の魅力を発信するのであれば、団体別にする意味はないと思う。予算も一団体だと限られるので、持って行き方は難しいが、そういう流れを早めにつくることができれば、間に合うかもしれない。時期については、4月始まってバタバタと過ぎていくので、後の方がありがたいはあるが、12月は各団体色々あるので11月までにして欲しい。また、学生さんが参画して介護の現場のことを自ら発信してもらえると、こんなに強いものはないなと思う。

#### 【委員】

- 社会福祉士会はこれといってイベントはないため、時期はお任せしてそれに合わせていける

と思う。

- 東委員が言われていたスポンサー的な企業について、将来的には自走も目標になっている中、例えば次年度に協賛を呼び掛けることができるのなら、それもひとつかなと思う。学生を活用して行くことについて、彼らの SNS による発信力はかなり大きいので、SNS を動かしている世代の力を借りたい。また、団体毎にというよりは皆で協力して行って、団体のアピールではなく介護の魅力という部分での発信が理想と思う。また、介護介護なものではなくて、介護している人たちがやっている楽しいイベントみたいな発信でも良いのかなと思う。

#### 【副部会長】

- 時期で言うと 12 月は何かと事業所でもイベントがあるのかなと思う。年末年始の勤務調整もあると思う。介護福祉士会としては介護の日の 11 月 11 日にささやかながらイベントをしていたので、その前後がありがたいと思う。
- 企画内容として、オブザーバーの SNS による発信の効果は大きいと思ったので、イベント当日のみに各団体が力を注ぐのではなくて、継続して発信するのが良いと思う。そのために、介護福祉士会では Facebook ページしか今はないが、違うページも考えながらハッシュタグでしがけあや人材センターとか各団体を繋げて連動性を持たせると良いのではと考えていた。ページ作成などはプロの力を借りられるとありがたいと思う。

#### 【委員】

- 時期的なものは、準備期間も必要であり、学生の流れを見ながらお任せになると思うと 11 月や 12 月頃が良いと思う。前は各団体でブースを作るという形は一応とれたので、今回はひとつになって介護全体でということと、介護以外の外部の力やアイデアを持ち込んでもらおうと良いと思う。
- 介護の人たちだけだと堅苦しかったり偏ったりするのではと思うので、このような部会に他の人にも参画してもらっても良いのではと思う。

#### 【部会長】

- その他全体において、次年度に向けてのご意見等あるか。

#### 【委員】

- 私は滋賀県の公共交通のあり方についての検討の仕事も県から受けているが、交通税の議論がいよいよ本格化すると思う。これは、滋賀県民の皆さんが自分事として受け止めるタイミングがやってくるということ。滋賀県の皆さんは、自分たちの生活環境のあり方や、社会インフラをつくったり守ったりなどに関して、全体として皆さんに当事者意識を持ってもらいやすい土地柄だと思う。それは全国的にも先進的であると思う。
- 例えば、西川貴教さんが前面に出て滋賀のブランディングを一生懸命やってくれているが、滋賀のブランディングというのは、単に外でのブランドが高まること以上に滋賀県民の皆さんが自分たちの生活や歴史を支えることについて、当事者として関わっていただけたところに強みがあるのだろうと思う。
- これから交通税の議論が本格化して行くわけだが、例えば、過疎地域のバス運行を残すことについて、都市部の人たちも負担して残すということになるが、それで良いじゃないかと皆

さんに思ってもらうことが大事なわけである。そういう感覚を滋賀県でいよいよ皆さんで醸成していく段階に入る。

- この問題と、介護の人材を誰が支えるのか、介護のシステムを誰が支えるのかという問題とは、同じ問題だと思う。同じ構造だと思う。つまり言いたかったのは、県としての広報戦略の中にこれをしっかり入れていくべきだと思う。今のところ私は県広報課所管の活動について直接知ったりもの言ったりする立場ではなくどのように動いておられるかわからないが、それぞれ交通は交通でやっているし、環境は環境で、介護は介護で。非常にもったいないので、是非うまく結びつけてやっていただきたい。これは県庁の皆さんに対する強い要望である。

#### **【部会長】**

- 事務局におかれては、本日いただいたご意見等を踏まえて動いていただければと思う。
- 今年度の部会の会議は本日で最後になるが、わたくし1年間部会長を務めさせていただいたが、至らぬこと多々あったと思う。大きな活動の長ということで、最初はお断りしたが、団体から出させていただいている中で、何とかできたらと務めさせていただいた。皆さんのご協力のおかげで助けていただいた。この事業は引き続き継続していくことと思うが、次年度以降も皆さんのご協力よろしくお願ひしたい。ありがとうございました。

#### **【事務局】**

- 部会長におかれては、1年間大変お世話になりありがとうございました。部会長のおかげでこうした形に繋がってきたと思う。また、委員の皆様にも積極的に参画いただき、ありがとうございました。来年度もこの部会を続けていく予定であり、本日のご意見も精査して、要領等に反映すべきものは反映してスピード感をもって進めていきたいので、引き続きよろしくお願ひしたい。本日はありがとうございました。

以上